# 堀之内城山城跡・犬居城跡の発掘

堀之内城山城跡（標高330m）

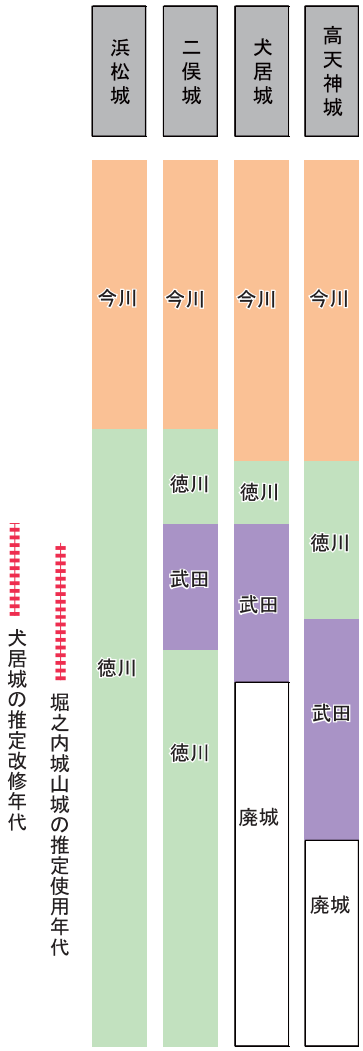
犬居城跡（標高290m）

2010年12月12日

浜松市文化財課

## 徳川家康を中心とした関連事項の年表

| 年　号 | 西　暦 | できごと | 家康年齢 |
|---|---|---|---|
| 永禄３年 | 1560 | 桶狭間の戦い | 19 |
| 永禄４年 | 1561 | | 20 |
| 永禄５年 | 1562 | | 21 |
| 永禄６年 | 1563 | 三河をほぼ平定 | 22 |
| 永禄７年 | 1564 | | 23 |
| 永禄８年 | 1565 | | 24 |
| 永禄９年 | 1566 | | 25 |
| 永禄10年 | 1567 | | 26 |
| 永禄11年 | 1568 | 遠江進出、引馬城入城（織田信長上洛） | 27 |
| 永禄12年 | 1569 | 遠江経営本格化　（今川氏滅亡） | 28 |
| 元亀元年 | 1570 | 浜松城築城開始、姉川の戦い | 29 |
| 元亀２年 | 1571 | 三方原の戦い | 30 |
| 元亀３年 | 1572 | | 31 |
| 天正元年 | 1573 | （信長、足利義昭を追放、室町幕府滅亡） | 32 |
| 天正２年 | 1574 | 第一次　犬居城攻略戦、高天神城、落城 | 33 |
| 天正３年 | 1575 | 長篠の戦い | 34 |
| 天正４年 | 1576 | 第二次　犬居城攻略戦　（信長、安土城築城） | 35 |
| 天正５年 | 1577 | | 36 |
| 天正６年 | 1578 | | 37 |
| 天正７年 | 1579 | 長男信康自刃 | 38 |
| 天正８年 | 1580 | | 39 |
| 天正９年 | 1581 | 高天神城、奪還 | 40 |
| 天正10年 | 1582 | 三遠駿三国を領有　（武田氏滅亡、本能寺の変） | 41 |
| 天正11年 | 1583 | | 42 |
| 天正12年 | 1584 | | 43 |
| 天正13年 | 1585 | 小牧・長久手の戦い | 44 |
| 天正14年 | 1586 | | 45 |
| 天正15年 | 1587 | 居城を府中に移す | 46 |




## 堀之内城山城跡と犬居城跡

堀之内城山城と犬居城の二城は、徳川家康と武田信玄・勝頼の攻防の舞台として位置づけられるだけでなく、日本歴史上の重要な出来事にも密接にかかわっています。

桶狭間の戦い（1560年）で今川義元が討ち死にし、氏真が家督を継ぐと、今川氏の弱体化が進みます。徳川家康は、三河の領国支配を磐石にしたのち、織田信長の上洛（1568年）を契機として遠江に進出、同時に武田信玄も駿河に進攻します。それまで今川氏の支配下であった遠江の諸勢力はいったん徳川の勢力下におかれますが、数年後には遠江・三河に進出した武田信玄が取り込んでいきます。犬居城の城主であった天野氏は武田軍の進攻を助け、徳川家康を大いに苦しめます。家康は1574年に犬居城奪取のための兵をあげますが、落城させることができませんでした。同じ年には東遠の要である高天神城も攻め落とされ、武田方の対徳川包囲網が広がっていきます。堀之内城山城は、この頃、家康が犬居城攻めのために使った施設とみられます。

徳川方の劣勢を覆す契機は、長篠の戦い（1575年）でした。信玄の後を継いだ勝頼は、徳川・織田連合軍に破れ、以後急速に勢いを弱めていきます。勝利の余勢をかって、徳川家康は遠江にある武田氏勢力の駆逐を目指します。1575年には二俣城攻めを成し遂げ、翌1576年には犬居城の奪取に成功、1581年に高天神城を落とし、遠江全域を領有するにいたります。

元亀元年（1570）頃の勢力図

## 堀之内城山城跡

堀之内城山城跡は犬居城跡の東南約1.5kmの山頂に位置します。森から犬居に至る秋葉街道に接しており、二俣に続く街道の眺望も開けています。山頂の本曲輪を中心に、東南方向に伸びる尾根づたいに曲輪や堀切、竪堀などがみられます。

2010年の発掘調査では、数多くの出土遺物が出土しました。出土遺物から、この城の使用時期が、徳川家康の犬居城攻めの期間（16世紀後葉）と捉えてよいことが確認できます。

3トレンチ調査状況



1トレンチ調査状況

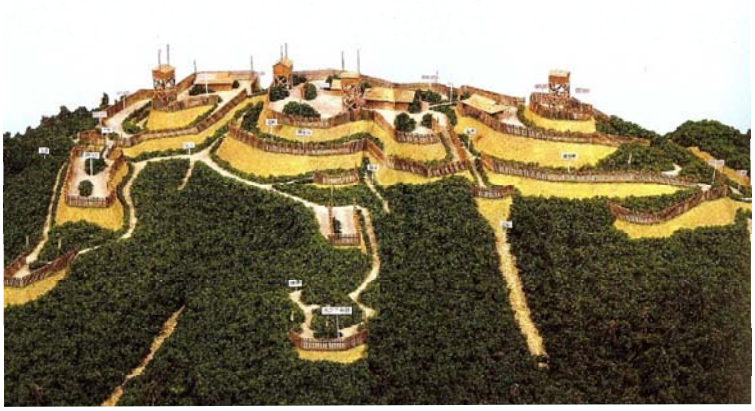
出土遺物　16世紀後葉頃の陶器・磁器が数多く出土しました。

4トレンチ調査状況

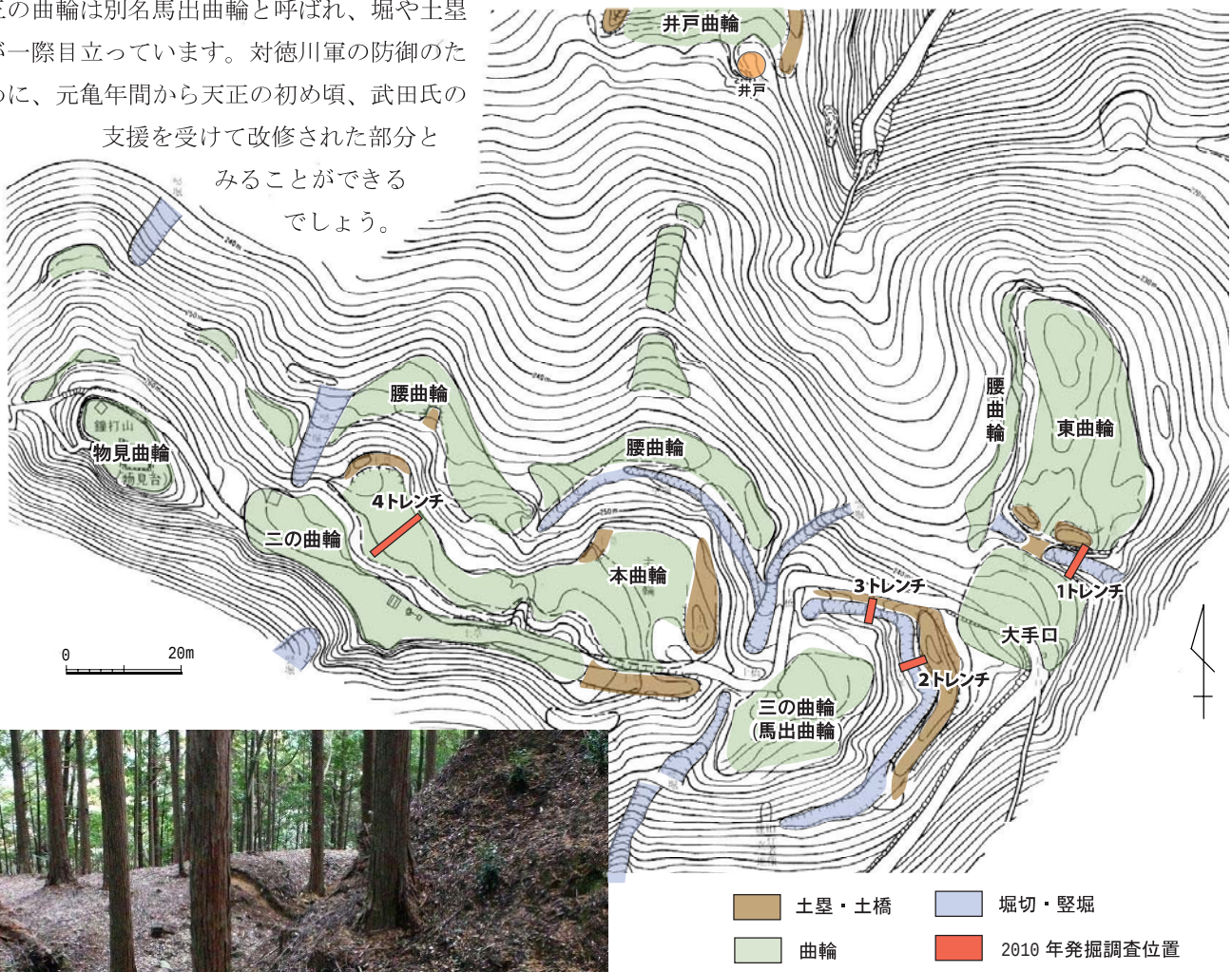
幅1.2m、深さ0.8mの規模と判明しました。

## 犬居城跡

犬居城は、鎌倉時代から続く国人領主、天野氏が本拠地にした詰城です。天野氏が日常居住する居館は犬居城の南麓にあったとみられます。尾根の最高所が鐘打山山頂（標高290m）で、物見曲輪が築かれています。そこから、東に向かって二の曲輪、本曲輪、三の曲輪と続き、大手に至る構造をもちます。三の曲輪は別名馬出曲輪と呼ばれ、堀や土塁が一際目立っています。対徳川軍の防御のために、元亀年間から天正の初め頃、武田氏の支援を受けて改修された部分とみることができるでしょう。



犬居城復原模型



**３トレンチ**

三の曲輪（馬出曲輪）を囲む堀は断面箱形を呈し、幅 6. 1m、深さ 1. 7 mほどをはかる大規模なものです。当時重要性を増していた鉄砲に対する防御性を高める工夫とみられます。

**１トレンチ**

東曲輪は幅 6. 1m、深さ 2. 0mほどの堀と土塁で区切られ、土橋で大手口につながっています。